2018年7月10日掲載　輸送経済新聞

自動車販売不調で減収減益

DTHD

第一貨物と太平興業を傘下に持つディー・ティー・ホールディングス（本社・山形市、武藤幸規社長）の平成30年3月期連結業績は、売上高が前期比0・6％減の1086億8000万円、営業利益が同30・6％減の16億8000万円、経常利益が同23・8％減の16億1500万円と減収減益だった。トラック・バスを販売する太平興業の不振が大きく響いた。

主要子会社2社については、物流を手掛ける第一貨物が増収増益。特積み事業での物量の持ち直しと、雇用競争力を高め待遇改善を図るための運賃適正収受、ロジスティクス事業での大口顧客の好調によって売り上げは同3・2％増の712億6000万円。

利益面では、特積みのドライバー不足に伴う外注費の増加と燃料費の上昇、ロジの特定顧客の不振を力バーし、経常利益は同23・9％増の8億7200万円と増益。

一方、太平興業は減収減益。トラック・バス販売は、中古車は堅調だったものの、新車が売り上げ、利益とも減少。部品販売は保有台数の減少で減益。整備は車検の入庫台数増加と単価改善で増益となった。全面改築した秋田支店や、工場を増築した能代出張所の減価償却費も減益の一因となり、売上高は同10・6％減の295億7000万円、経常利益は同62・8％減の2億4000万円だった。

（矢田　健一郎）